

春に入る 帯広 中野 知弘

北東の暁暗裂きて先制のミサイルの尾のぼうぼうの火よ
貼り紙はいづく刺青の桜花 大晦日咲く岩風
呂の底
奨むるは内部告発 行きつくは古代ローマの
悪しき伝へに
何かせむ 砂漠こえ行き捕らはれぬ轡がろし
そを羨しむ夕
薄暗き四月の午後は風やまずアルハンブラの
テープを流す

独立法人 札幌 山口 康徳

- 一. むずかしき顔つづけるわがトップ
ラーメンすすり歌舞伎見て笑む
- 二. 銃弾とテロに会はざる先遣隊
無事祝ひつつ涙と握手
- 三. ポプラより飛散しきたる和毛（はごけ）をば前肢
のばし追ふ猫無邪気
- 四. 水もあり洞穴ありとふ結果ききかかって
生きとし火星人想ふ
- 五. 大学の研究意欲高むるや
新しき顔独立法人

北海道医報人会誌年

天上の花 札幌 魚住あらた

足を曳くこともなくわれつくづく
地上の花かたばみの花
桜々ここにもありとおのづから
人々仰ぐ天上の花を
桜はなつくづくたりて惜しみなく
天上の花残香まばゆし
けふをしもわれに沈痾はなきままにつくづく
たりき母の想ひを
けふをしも春よぶかほりさえぎえ
と沈丁の花残香の花

一国一城 札幌 小国 孝徳

産み分けを目的とする着床前診断是非か迷
ふ隠居の吾も
一国一城の面影もなく一つビルにひしめく内
科外科その他もろもろ
医学医療に触るるなき医家文芸クラブ今宵は
語り合ふ「蟹工船」を
文一郎君の父君の病院を継がむかと訪ひたる
ことも昨日のごとし
会長を北海道に奪はれまいと歌の友の子息を
落選せしむ

小宇宙 札幌 古屋 統

朝の籠開けば勇躍翔ぶインコ十二畳半の小さ
き宇宙へ
門に来る人を察知し啼くインコ我が帰る時も
妻戻る時も
黄砂舞う気象予報の翌朝の路上の雪の淡き土
いろ
窓際に積みたる雪はまだ融けず黄砂交えし土
いろのまま
新聞の日曜版のパズル解き成らぬに妻が朝餉
うながす

